



緑化建設協会だより

発行所 一般社団法人 石川県造園緑化建設協会 総務企画部会 発行責任者 北 総一郎

〒920-0376 金沢市福増町北 840 番 2 TEL 076-269-1110 FAX 076-269-1279



「令和」の時代に向けて

副会長 廣野 拓雄

新しい年が明け、五月一日からは平成から令和へと新しい年号に変わりました。

私も早いもので、副会長として中川前会長、岸会長に任せて11年になります。

この間、各会員、役員の皆様方には、協会運営にご協力を賜り誠に有難うございます。

また、赤堀前事務局長にも、私より一年前に就任以降も大変お世話になり、理事会、挨拶回り、研修旅行とご一緒させてもらった日々を今も時々なつかしく思い出しております。

この度の寄稿に際し、石川の造園業会での取り組みの中で、とりわけ能登地区のことについて述べたいと存じます。

現在、能登地区には志賀町緑化協会と輪島以北の奥能登造園協会、能登全域の当協会能登支部の三団体があり、活動を行っております。

中でも能登支部においては、平成25年度から公益法人制度改革に伴い「植樹等による能登の里山再生活動」に取り組むこととなり、初年度

には、能登空港ターミナルビル前には、樹齢約25年、高さ3m、幅4mのとキリシマツツジを移植し、同空港のシンボルツリーとして訪れる市民、観光客の目を楽しませてくれております。

のとキリシマツツジは、能登半島に分布する江戸キリシマ品種群のツツジのことで、能登地方での呼び名であります。

能登町の「NPO法人のとキリシマツツジの郷」が中心となり、栽培から管理をはじめ、その名を広める為に様々な活動を行った結果、のとキリシマツツジは、能登方面のみに限らず金沢市内や兼六園にも植栽されております。

また、この一月には英王室が関係する庭園四か所に、のとキリシマツツジの苗木を寄贈することが内定のし、同法人もこのことに歓喜し益々の活動の場を広げようと、より一層の活躍を誓い合っております。

このようなことも踏まえ、我々能登支部会も同法人、生産者とも協力してのとキリシマツツジの需要に努めてまいりたいと考えておりますので、協会員の皆様方にも、ご協力の程よろしくお願いいたします。



大阪湾周辺港湾関係施設研修

(有)出雲園 守山 武

平成30年11月15日～16日の二日間の日程で研修旅行に行つてきました。金沢港周辺の港湾改修工事提案のための参考として、大阪湾周辺の港湾関係施設を中心に視察をしてきました。前回の名古屋港周辺に続いての視察です。

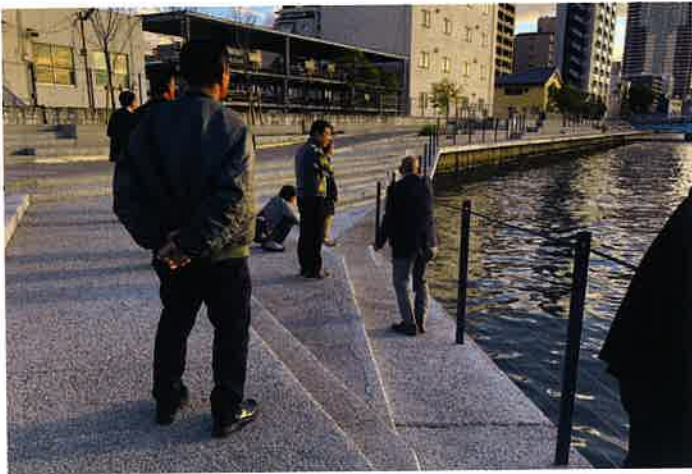
バスで金沢を出発し昼前には大阪に着きました。昼食をとるために大阪市街に入り、ここで今回の研修の解説をしていただく田中幸一様(淀川河川公園管理センター長)と



合流しました。うどん食べ放題の昼食を終え最初の目的地「舞洲」に向かいました。舞洲はUSJや海遊館のそばにある大阪湾を埋め立てた人工島でスポーツ施設を中心に整備されていきました。隣に夢洲という同じような人工島があったのですが利用目的も決まらず手付かずのままでしたが、現在大阪万博が開催されることになりその会場に利用されることになったようです。舞洲緑地の前でバスを降り、歩いて視察することになりましたが、11月の平日ということもありほとんど利用者はみられませんでした。ロッジやバーベキュー場もあり、夏場はもっとにぎわっているのかもしれませんが。しばらく歩いて海岸の方に出たのですが

昨年台風による強風や高潮の被害で樹木は幹から折れ、石畳や石段はめくれあがりゴミは散乱、ひどい有様になっていました。片付けや修繕される様子もなく放置されていて、市街地から離れた施設の厳しい現実を感じさせられました。次に南港で1か所商業施設の緑地を視察し、「大阪南港野鳥園」に向かいました。





この施設は人工池が4か所造られており、それぞれに特徴を持たせ様々な野鳥を見ることができるようになっていました。野鳥を見るところがはつきりした場所なので野鳥愛好家の方も多数おられ、その場にいらした方に望遠鏡で野鳥を見せてもらうことができました。個人的に面白い施設だったと思います。野鳥園を離れ他の施設を視察しホテルに向かいました。途中ホテル近くの中島の緑地を散策しましたが、この施設は大阪市役所のそばで市街地でもあり、きれいに整備管理され、たくさんの人が街中の景色を楽しんでいました。

二日目は手始めに堺市の大浜公園にある標高6mほどの日本一低い山(蘇鉄山)に散歩がてら登山してきました。そこから次に「さかい利晶の杜」に行きました。ここは千利休にまつわる展示物のある「千利休茶の湯館」と与謝野晶子にまつわる展示物のある「与謝野晶子記念館」からできていました。まだ新しい施設で、建物も周りの植栽もきれいになっていました。隣にスターバックがあり、これも最近よくある施設のかたちだなどと思いました。それから通天閣のふもとで昼食を食べ最後

この施設は人工池が4か所造られており、それぞれに特徴を持たせ様々な野鳥を見ることができるようになっていました。野鳥を見るところがはつきりした場所なので野鳥愛好家の方も多数おられ、その場にいらした方に望遠鏡で野鳥を見せてもらうことができました。個人的に面白い施設だったと思います。野鳥園を離れ他の施設を視察しホテルに向かいました。途中ホテル近くの中島の緑地を散策しましたが、この施設は大阪市役所のそばで市街地でもあり、きれいに整備管理され、たくさんの人が街中の景色を楽しんでいました。

の視察地「パナソニックミュージアム」に行きました。ここには昔懐かしいナショナルの電化製品がたくさん展示されていてパナソニックの歴史博物館になっていました。

これまでの大都市の港湾視察を参考にして、これからの金沢港周辺整備をどのように進めていくか、造園的見地から提案していくことで、県民や観光客により親しまれる街づくりに貢献していければ幸いです。

今回の旅行でお世話になりました田中様、企画していただきました事務局・理事の皆様へ感謝申し上げます。



加賀支部 広島県視察 安芸路編

(一社) 石川県造園緑化建設協会
加賀支部 平成31年2月3日4日
広島県視察 安芸路編

御木万葉造苑 田畑 智日

恒例となりました加賀支部の春の研修の旅ですが、今回は広島となりました。ここ数年は最先端緑化を中心とした先進都市、東京を始め大阪、名古屋、福岡など視察させて頂いておりました。そこで今年は趣向を少し変え、2023北陸新幹線敦賀開業に向け、南加賀としてまた石川としての『歴史遺産と観光都市戦略』(勝手に命名)を旗印に街づくりプランの提案にプラスとなる発見探しに、広島市をはじめ呉市、廿日市市を巡って参りました。

2月といえば太平洋側は晴れとなることが多いのですが、あいにく初日は雨でした。当初、初日に安芸の宮島に行く予定でしたが急遽井野上支部長のご配慮により予定を入替え、呉市の大和ミュージアムと隣接する海上自衛隊呉資料館のつきのくじら(潜水艦)を先に視察、歴史の勉強をさせて頂きました。呉は

おもに造船所で戦時中は戦艦を造っていたところでした。戦艦大和もそのひとつで、日本の威信を掛け当時の国家予算の3%という莫大な費用を1隻の戦艦に賭けた思いなど、ガイドの方からの説明をお聞きし、当時の人々の思いをひしひしと感じ胸が篤くなりました。平和な世の中が如何に大事かと思いをほせ自分の思考が如何に稚拙かと、この日はそのことが頭から離れることはありませんでした。

2日目は晴れました。井野上支部長のご心労の甲斐がありまして、大成功の予感とともに心も弾み心機一転、原爆ドームからスタートしました。ひっそりたたずむドームの周囲は一瞬に焼け野原になった過去がうそのような静寂さと荘厳な雰囲気を感じ出す一体感のある緑化となっており、緊張感のある素晴らしい演出が出来ていると感じま

した。そのまま記念公園と資料館に歩を進めましたが、資料館は外観も見たかったのですが、改装中でしたので少し残念でした。その後、みなと公園、宮島を視察、厳島神社参拝。宮島は歴史あり美しさあり日本らしさあり、観光地はこうありたいというものが詰まっている、という印象を受けました。(宮島は安芸路編Ⅱで紹介します)

私自身初めての広島でしたので



見どころはさることながら、食も堪能しつつ大変価値のある視察となりました。ご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

(安芸路編Ⅱ)

私なりに宮島を分析してみました。

まずなんといっても見えるけど簡単には行けない、車ではなく船で行くというのがいい。はるか古に通じる感覚がここにはある。その乗船までの待ち時間、遠くに鳥居が見えるがたどり着けないもどかしさを感じつつ、「いつの時代から鳥居はあったのか」、「昔は船から直接大鳥居をくぐって参拝にむかったのだろうか」、などと思いを巡らせる時間が出来、こういう時間が訪れる人の心を鷲づかみするといった印象を受ける。そしてゆっくり瀬戸内の静かな海を船は走り出し、だんだんと近づく大鳥居に釘付けになる。演出は日本三景の中でも群を抜いている。最高だろう。時間にして二十分位か、満を持して到着。周囲を見渡せば背景の弥山のみどりと瀬戸内の青に心が洗われる、とても美しい。天気に恵まれたせいか体も軽い。船

着場から厳島神社の参道に向かって多くのお土産屋が並んでいる。創建当初はなかったと聞いてはいるが、やはり活気があって現代には合っている気がする。昨日のお好み焼き屋の店主から聞いたリサーチを元にお土産屋を物色、お目当てを見つけ頬張る。あつあつの揚げモミジが旨かった。周りの観光客につられ広島駅で買うつもりだったモミジ饅頭をついついここで勢いに任せて買うことになった。さらに歩を進めていても想像はつきない。宮島は潮の干満によって見える風景はガラッと変わるのが容易に想像できるからだ。我々が訪れた時は干潮に向かつてい



るところで、あと三時間くらい経てば干潮だと知らされましたが、それまでの時間は今回許されず、ここでも奥歯にものが挟まった感じのほどかしさを感じさせる又々にくい演出の洗礼を受ける。大鳥居をくぐりなおかつ海に浮かぶ社殿を見るためには二日は滞在必要か。

厳島神社参拝、国宝にもなっている社殿、椋皮葺がまた趣を助長している素晴らしい建築であることは言うまでもないだろう。

数々の歴史の舞台となった当時の風景を思い起こさせるゆつくりとした優雅な気分を堪能したひとときを頂いた。ピンと張り詰めた空気とおのずと背筋も伸びるような感覚も味わうことが出来た。私の第六感が反応した。まさにそんな感じでした。などと後ろ髪を引かれる思いで宮島からの帰りの船の中でそんなことを考えていた。

「後記」

今回の宮島については景色と観光地としての演出という観点からの段としました。

お読み頂きありがとうございます。田畑



「交通安全施設等の設置について」

(株)中山造園 中山 浩

近年、道路・公園等での作業情報を的確に伝える交通安全施設はますます重要性を増しています。

作業をしている我々も安全施設をしつかりと設置していれば安心して作業に取り組むことができます。

最後まで事故・苦情もなくその現場を終わらせることは1人1人が細心の注意を心掛けて、安全活動を積極的に言い災害を未然に防ぐことが重要だと思えます。また、地域住民の協力・理解の重要性も視野に入れて今後は安全意識の向上を図り、マンネリ化を防ぎ、災害の絶無を目指したいと思えます。

ですが、安全施設等を適材適所に設置しているか、できるか、各々の会社で責任者(現場代理人)、職人たちの知識も向上させていかなければならないと感じています。ただやみくもに置くのではなくこの場所にはどの安全施設を設置したらいいのか、まぎらわしい看板などはないかなど様々なことを勉強していかなければなりません。また、万が一事故等が発生した場合の対処法なども事前に確認を会社内で話し合っ

ていかなければ早急な対応が取れないのではないかと思っています。

今回は道路上における適切な交通安全施設の設置に関する講演ではありましたが我々の作業場所は他にも公園、民間、マンション、病院等いろいろな場所で作業をしています。どの現場の作業にあたって交通災害は起こりうるものだと思います。我々自身の安全はもちろんのことではあります。通行車両、行人の安全も視野に入れて各場所に必要な安全施設を設置していくことを今一度心掛けていこうと改めて勉強させていただきました。

最後になりましたが、北陸新幹線が出来てから石川県に訪れる観光客が多くなっています。街中や観光地周辺には、日本人の人たちだけでなく海外の人たちでも賑わっています。その中で日本語の看板だけではなく英語をはじめとするほかの国の言葉でも明記して設置していかねばならないと思っています。



『若手の考え、思っていること』

(株)金沢レインボー 茨木 一樹

まず自分たちの世代の考え方として、個人の考えや思っていることがあると思いますが造園業界の発展を向上させるにはどうすればいいのか? そもそも造園業界の発展とはどういうことなのか? 正直、『業界の発展』について具体的にわかっていない人は多くはないと思います。自分も具体的にわかるのか? といえればわかってないです。

では『業界の発展』とは、どういうものなのか? 自分なりに色々と考えてみました。

造園業界だけではない話ですが、建設業界全般で抱えている課題として必ずと言っていいほど最初に挙げられるのが「人材確保」の課題です。この課題に対して、今の子供たちに「造園」というキーワードがどれほど浸透しているのか。この「造園」というキーワードを多くの人に、多くの子供たちに教えるイベントなど今以上に増やしていかないとこれから先、『造園業界』が衰退してしまうのではないかと思います。

次に、利益率の低さも、大きな課題となっています。



建設業の需要は増加しているものの、供給過剰の状態でもあるため、その結果、各社の価格競争は熾烈を極める状況だと思えます。また、材料費人件費が高騰しており、これもまた利益率の低下の要因とも考えられます。

これらの事をふまえて、今の自己世代でも考えることは『業界の発展』につながる「人材確保」、子供たちの「造園」に対する認識、材料費人件費の利益率の低下、など考えています。

自分の考えとして題名にもあるように、『若手の考え、思っていること』は今現在の業界の状況を見て将来の業界をどうしていくか考えて、諸先輩方の知識や技術を借りてこれからの業界の発展に貢献していきたいと思えます。